

令和6年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	25	学 校 名	浜松みをつくし特別支援学校	校 長 名	池田 昌史
------	----	-------	---------------	-------	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
	主体的に学びあうことで深い学びを実現し、自己決定力をはぐくむための授業実践	・教員各自が研修によって、全ての授業に対して授業改善を繰り返した。	・教員各自が研修によって、全ての授業に対して授業改善を繰り返した。	A	・各学部や分掌での研修を受けて、学習集団をいかした授業改善に取り組んでいる。学習指導要領や自立活動指導画、個別の指導計画に基づいた授業実践を今後も進めていく。
	地域とつながることによる自立と社会参加に向けた学校教育力の向上	・地域貢献につながる地域を巻き込んだ授業（活動）を実践し、「みをつくしシート」に反映した。	・地域貢献につながる地域を巻き込んだ授業（活動）を実践し、「みをつくしシート」に反映した。	A	・みをつくしサポーターをはじめとした地域資源を活用した授業実践を行うことができています。みをつくしシートの作成は順調に進んでいるので、来年度も日々の実践を反映させながら、完成を目指したい。
	キャリア発達を促す一貫した教育課程を軸にした教育活動の充実	・保護者が自分の子どもの将来の姿をイメージしたキャリアパスポートの取り組み等、今できることに家庭も取り組んだ。	・保護者が自分の子どもの将来の姿をイメージしたキャリアパスポートの取り組み等、今できることに家庭も取り組んだ。	A	・面談などでキャリアパスポートについて保護者と共有し、将来の姿に向かって今の目標や今できることについて、話し合いを行ってきた。家庭でのキャリアパスポートも2年目となり、保護者の意識も高まってきたのではないかと思います。
	子供の人権を守る取組の推進	・全教員が児童生徒の良さに視点を置いた指導を常に実施した。	・全教員が児童生徒の良さに視点を置いた指導を常に実施した。	A	・人権研修をはじめとした研修や話し合いの機会を生かし、全職員が児童生徒の良さに視点を置いた指導を行った。今後も研修の有無にかかわらず児童生徒、教職員同士、さらには保護者に対しても日々のコミュニケーションを大切に、自他の生き方や価値観を大切にする倫理観をもった教職員集団を目指していく。
	児童生徒が自他の命を守ることができるための教育の推進	・児童生徒が、様々な命の大切さについて考えた行動をした。	・児童生徒が、様々な命の大切さについて考えた行動をした。	A	・児童生徒が自分自身や友達、先生、自分が使っているものなどに興味関心や感謝の気持ちをもつことができるよう指導を行ってきた。指導が児童生徒の行動に直結しない場面もあったが、子どもの

様式第3号

					行動や言動は背後にある心理的、環境的要因も大きく影響している。児童生徒理解と指導を並行して行っていきたい。
	事故や災害等の学校安全に対する予防、準備、学校再開計画の体制の準備	・全教職員と保護者が有事の際のイメージをもち、児童生徒のために今必要だと思う行動を起こした。	・全教職員と保護者が有事の際のイメージをもち、児童生徒のために今必要だと思う行動を起こした。	A	・様々な災害や危機発生に備え、訓練やマニュアルの見直しを行うことができた。家庭への呼びかけや意識改革も進んできた。しかし、夏の南海トラフ注意情報のようにいつ何時何が起きるかわからない状態は変わらないため、今できる最善の備えを常時心掛ける意識を持ち続けたい。
	居住地域（学区）での児童生徒の共生を目指した体制づくり	・本校の良さや指導・支援について外部へ伝えた。	・本校の良さや指導・支援について外部へ伝えることが十分でなかった。	B	・学校公開では、入学を検討している保護者及び関係機関の職員が2日間で173人参加。ほぼ全員が学校紹介VTRを視聴し、アンケートでは、学校の教育目標や各学部の目標や取り組みがわかったと回答し、特別支援教育への理解を深めることができた。 ・作品展示では、外部での作品展示を10箇所実施。HPに児童生徒の作品掲載コーナーを作り、3回更新した ・特別支援教育に関する情報提供や方法等に課題があった。
	地域のなかで共に学び、共に生活できる「共生・共育」の推進	・互いが「もっとやりたい。」と思える共同学習を実施した。	・互いが「もっとやりたい。」と思える共同学習を実施した。	A	・開校4年目となり、学校間交流の形や時期が定まり、交流の内容も充実してきた。学校所在地、居住地での交流を着実に行之、共生社会へ繋げていきたい。